

在来線名古屋駅輸送体制見直しについて議論！

3月25日、名古屋地本は「申第5号在来線名古屋駅における駅輸送体制見直しに関する申し入れ」について会社と議論しました。これは会社が、昨年12月13日、令和7年春ダイヤ改正説明時に在来線名古屋駅の列車扱い係員の廃止を計画する説明を受け組合として安全・サービス低下の問題があることから申し入れしてきたものです。以下、会社回答と主なやりとりです。

1. 今回の駅輸送体制見直しを撤回すること。

【回答】そのような考えはない。

2. ホームドアが完全整備されない中で旅客のホームからの転落防止をどのようにしていくのか明らかにすること。また、今後のホームドア整備の計画についても明らかにすること。

【回答】ホーム上の安全対策として非常通報灯・非常ボタン・内方線付点状ブロックは整備をしている。尚、今後の稼働柵の整備計画については現時点でお伝えできるものはない。

3. 新幹線遅延時の接続等、乗務員では把握しきれない。ホーム係員を常駐させること。

【回答】そのような考えはない。

4. 会社は、R V Sを推進しているが、今回の施策は逆行するものである。何もかも乗務員に押しつける施策はやめること。

【回答】そのような考えはない。

《主な議論》

組合:回答を受けたが何が何でも実施するということか。。

会社:問題ないと考えている。。

組合:関西線ワンマン列車は旅客が多く危険である。

会社:名古屋駅だけではない。他の駅でも対応できている。

組合:駆け込み乗車がある。後続列車利用の旅客と輻輳している。運転士一人の確認で大丈夫なのか。ワンマン列車は危険と感じた経験がある。

組合:関西線ホームは狭くてホーム主任は注意喚起の笛を頻繁に吹いている。現状を把握しているのか。

会社:多客時間に案内要員を配置することも検討している。

組合:入区・引き上げる入換車両の安全は誰が安全を担保するのか。

会社:・・・

組合:まずホーム稼働柵を整備してから施策を開始すべきだ。

会社:稼働柵の問題ではない。

組合:転落検知マットの設置は考えないのか。

会社:誤動作もあり考えていない。

組合:現在、中央線ホームに警備員がいるがそのようにしていくのか。

会社:警備員は稼働柵の関係でいる。

組合:警備員に権限はあるのか。社員の専門家を配置すべきだ。

会社:現時点で問題はない。

組合:他線区の遅れで接続待ちはどのように対応するのか。

会社:集約した輸送本部で無線等で乗務員に知らせる。

組合:各線区の優等列車の無線は下り位置に設定している。貨物会社のブレーキ試験を下り位置で行っている。無線が輻輳するので貨物会社に無線の設定位置の変更を要求されたい。

会社:ホームへの放送も実施する。

組合:会社はRVSを推進しているが、ホームに駅係員が居なくなり列車が在線しないときは社員がいなくなる。サービス後退と思わないのか。

会社:後退であるが通信・アプリで情報は発信している。

組合:イベント等があると名古屋駅管理者が大勢ホームに出てくるが普段は何しているのか。

会社:様々な箇所で業務している。余っていることはない。

組合:議論してきたが、まず安全が第一である。死傷事故が起これば会社も社員も不幸である。確り安全を確保すること。

以 上

